

# 認定機関の活動実績 および 今後の展開

第8回 認証のあり方検討会

2025年12月10日  
公益財団法人日本適合性認定協会



---

# JABの戦略的活動 I

(認定分野の拡大を通じた認証機関の強化)

#### プロジェクト概要

- SAF=バイオマス・廃棄物由来の再生可能原料により製造された航空燃料。わが国は2030年までに国内航空燃料の10%をSAFに置き換える目標。
- 日本海事協会(ClassNK) はSAFが国際的に認められたCORSIA適格燃料\*として国際的に基準に適合していることを証明するためのスキーム「ClassNK SCS」を開発。ClassNK SCSは国際的に認められたアジア発のスキーム。
- 日本適合性認定協会（JAB）はClassNK SCSを適用基準としたISO 17065認定事業を7月に開始。

#### SCS認証スキームの概要



\* CORSIA適格燃料 (CEF : CORSIA Eligible Fuel)

国際民間航空機関 (ICAO) が実施する「国際航空のための炭素オフセットおよび削減制度」(CORSIA : Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation) に適合した燃料であり、「CORSIA SAF (Sustainable Aviation Fuel : 持続可能な航空燃料)」と「CORSIA LCAF (Lower Carbon Aviation Fuels : 低炭素航空燃料)」で構成される。国際航空で求められている炭素排出量の削減根拠として使用され、ICAOが承認するSCSによる認証を受けている必要がある。

#### JABの役割・貢献

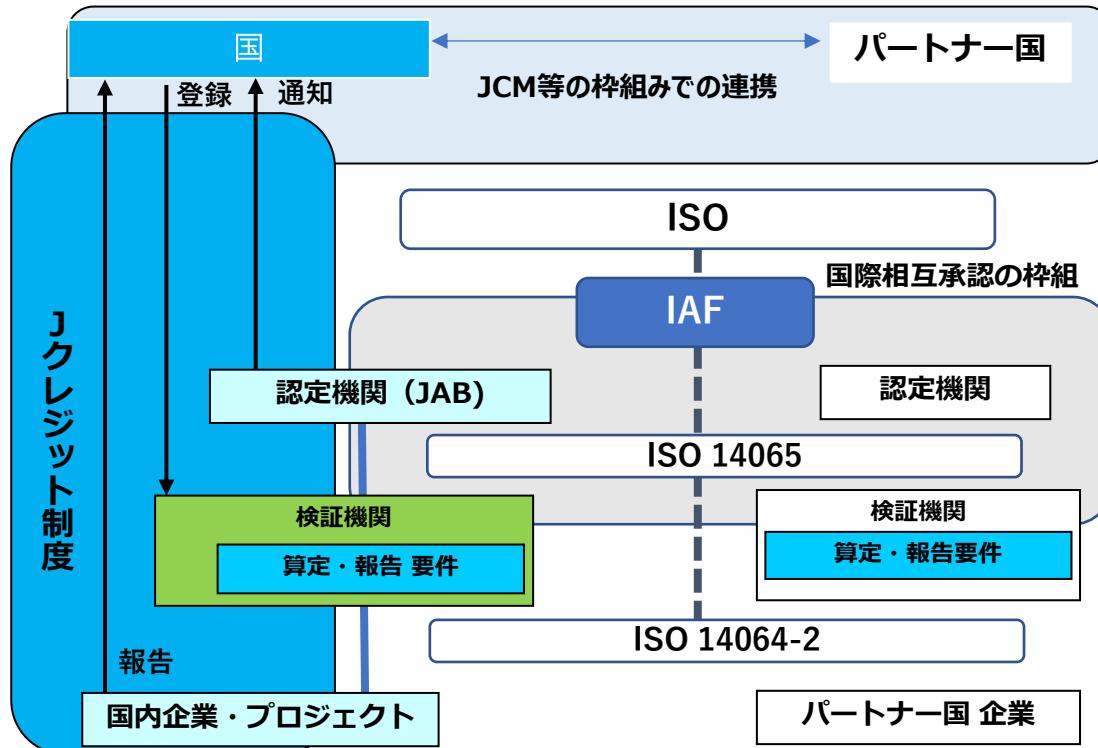
- 経済産業省/国土交通省の要請を受け取組検討を開始
- ClassNKとLOIを締結しスキーム開発初期段階から協力 (ICAO申請条件の整備、文書作成など)
- 認定スキームの早期立ち上げ (文書化/体制整備、機関決定)
- 認証拡大にむけたセミナーを実施

#### 今後のアクション

- セミナー継続などを通じ認証スキームの認知向上、認定の拡大を継続し、国産SAFの生産拡大に取り組む事業者を支援

## プロジェクト概要

- ISO 14064-2 プロジェクト妥当性確認・検証 1. GHGの削減プロジェクト（エネルギー産業）1 サブカテゴリ1-f) 非再生可能エネルギー由来プロジェクトに対する初めての認定を授与。
- アンモニアの製造、貯留、輸送を含めた排出量を加え、実際のアンモニアの使用量を測定しての排出量削減をねらったプロジェクト。



## JABの役割・貢献

- 方法論改定にかかる妥当性確認、検証、認定への影響評価を関係者間で共有（事業者、検証機関、認定機関、Jクレジット事務局、関係省庁）
- 追加的に求められる認定機関としての能力確保のため、JCM方法論も含めた内部研修、技術専門家確保に努めた。
- 水素を含む非再生可能エネルギー由來のプロジェクトに対して、力量のある認定された機関が、いつでも妥当性確認・検証を提供できる環境となった。
- 企業やイベントにおいては、非再生可能エネルギー由來のクレジットを活用したカーボンニュートラルが実現できることになった。

## 今後のアクション

- CCUS等の貯留に対する認定について、検証の需要等踏まえ調査を継続する。

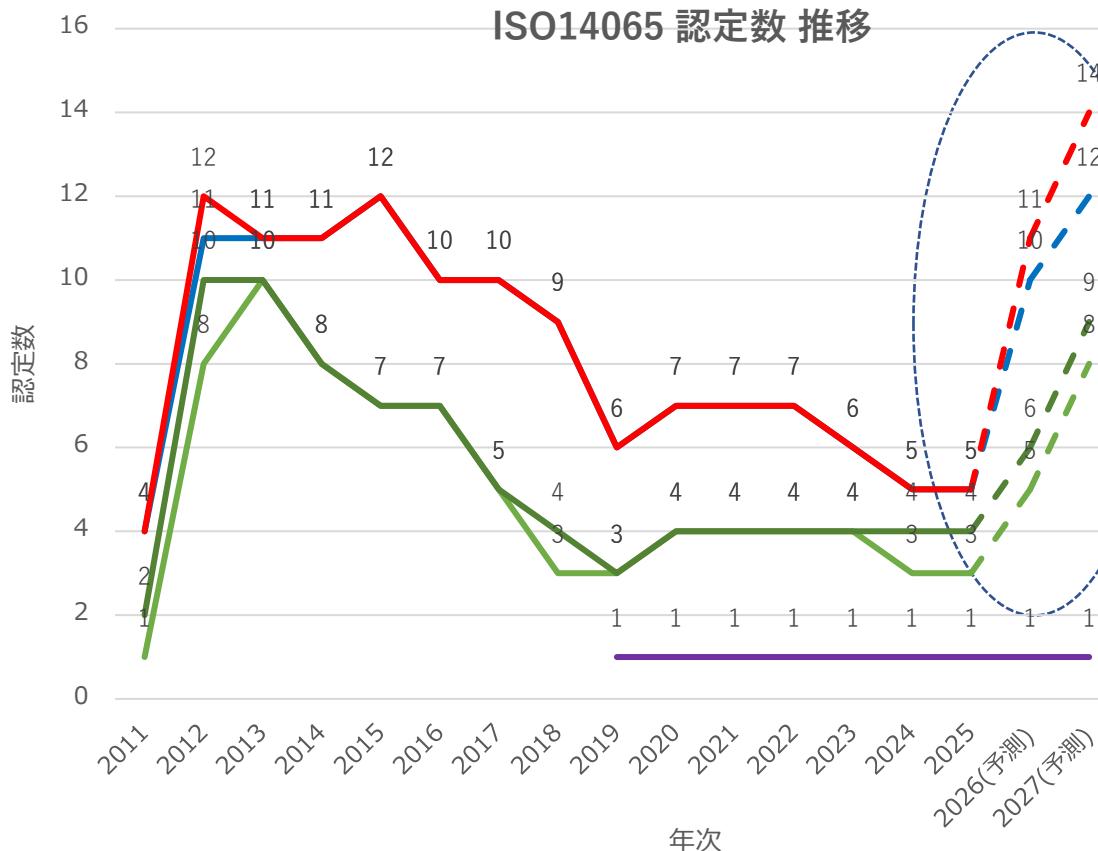
# 認定分野の拡大 GX-ETS制度における登録確認の担い手確保の支援

ISO 14065 (JIS Q 14065)  
GHG妥当性確認・検証



## プロジェクト概要

- GX-ETS制度運用開始に向け、登録確認機関（検証機関）になるための説明会、また、申請を希望する機関、過去に認定取得した機関など、十数件の個別オリエンテーションを実施した。結果、事業開始当初を超える申請、認定取得機関の増加を予測している。ISO14064-1に準じたISO/IEC17029、ISO14065認定スキームとその結果を活用いただく。



## JABの役割・貢献

- GX-ETS制度に対して、能力があり、信頼できるJIS Q 17029, JIS Q 14065 認定取得した検証機関を提供する。

## 今後のアクション

- 現在、申請機関に対し速やかに審査進め、できるだけ早期に認定数の充実を図る

- ISO 14064-1 組織 妥当性確認・検証
- ISO 14064-2 プロジェクト妥当性確認
- ISO 14064-2 プロジェクト検証
- ICAO CORCIA 検証
- 温室効果ガス妥当性確認・検証機関(合計)

注) 点線については、本協会個別  
ヒアリング基づく現時点での予測件数

# 認定分野の拡大 サステナビリティ情報の開示と保証

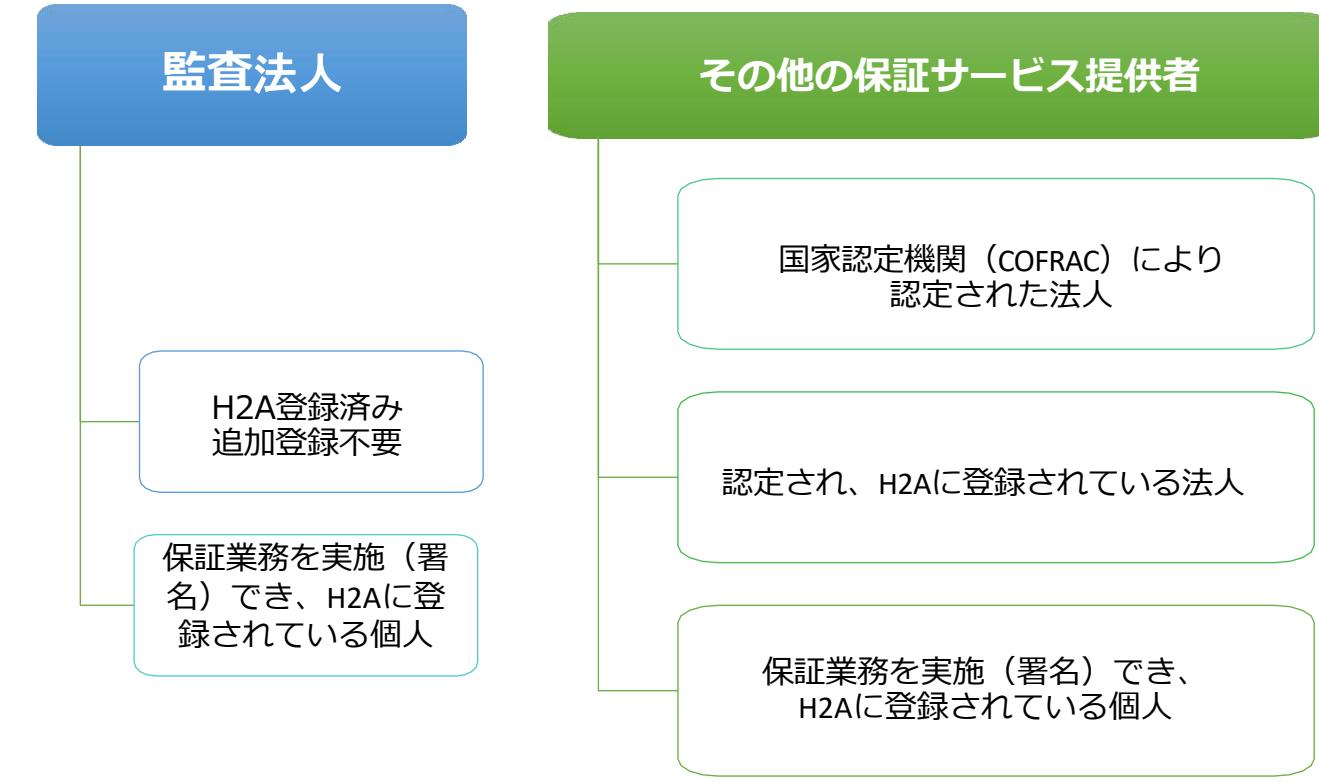
ISO 14019シリーズ  
サステナビリティ情報の妥当性確認・検証



## プロジェクト概要

- ISO検証機関と監査法人の両方が保証業務の担い手となることが想定される中、2024年から金融庁WG、SWGに参加。
- 保証業務に特化した要員育成プログラム、登録、資格制度について調査事業実施中

## フランス例：H2Aにおける保証の担い手の登録



## JABの役割・貢献

- GX-ETS制度の検証と整合のとれた保証の担い手を提供する。
- 日本の上場企業は、二重の検証（保証）を回避し、一貫した検証・保証プロセスで、検証・保証コストなどを削減することが期待できる。

## 今後のアクション

- 海外（フランス、シンガポール、イギリスなど）調査を通して、要員に求められる力量や知識の程度の概要把握と、育成プログラム登録、資格登録の仕組みの在り方などについて情報収集、調査分析中。

# 認定分野の拡大 調査研究：欧州規制への対応

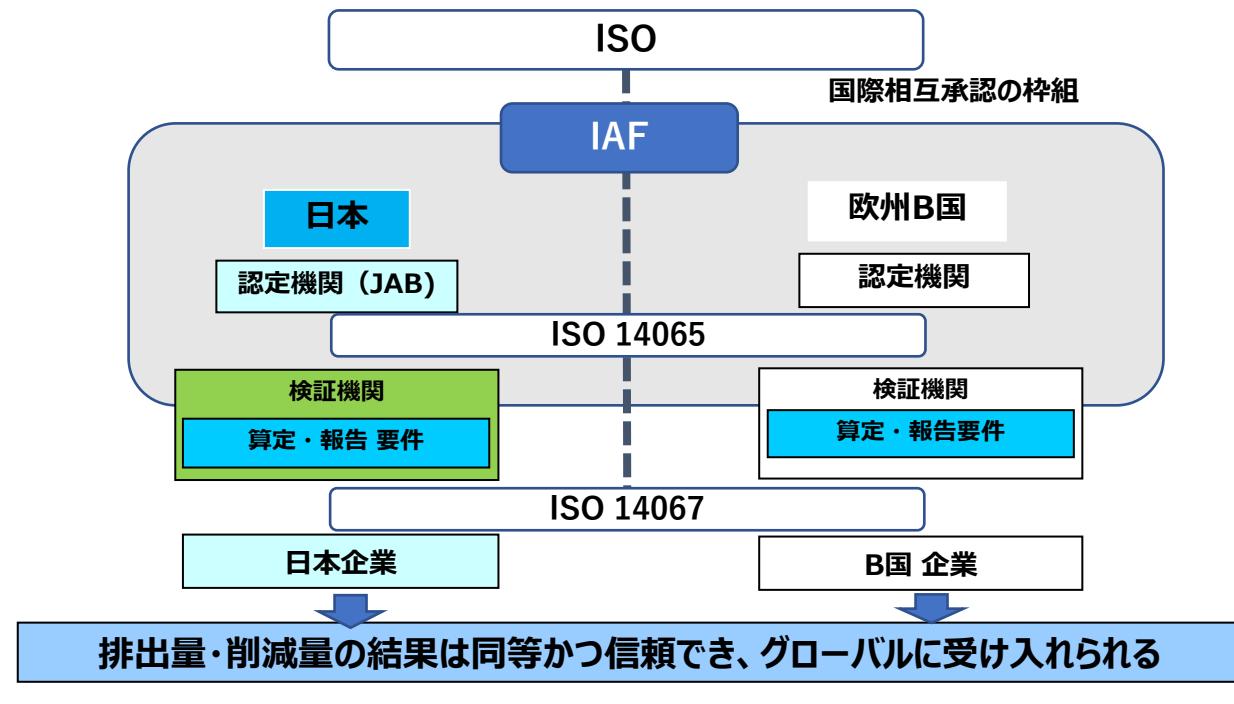
ISO 14067 製品CFP



## プロジェクト概要

- ・ 欧州電池規則、CBAM指令対応を目的とした国内での認定取得ニーズ、海外認証機関の越境参入可能性について、第1期調査研究を開始。

## スキーム図: ISO 14067 国際相互承認の仕組み



## JABの役割・貢献

- ・ ISO14067に対し、2025年秋、IAFMLA国際相互承認の仕組みが確立された。
- ・ ISO14067に対する認定実績をもって、本協会がISO14067の国際相互承認に加わることで、日本の検証機関による製品のカーボンフットプリントの検証の結果が海外でも受け入れられる。
- ・ 結果として、国際相互承認を通じた日本の検証機関を強化し、日本企業は、海外で追加的な検証コストをかけず、市場に早く上市できることが期待できる。

## 今後のアクション

- ・ 欧州での規制市場に対して、日本の検証機関が対応できる仕組み・機会創出を支援する。
- ・ 第1期調査研究成果を踏まえ、IAF相互承認スキームを活用した国内認証機関による海外展開の可能性を含めた総合的な第2期調査研究に移行予定

# 認定制度の活用

## 認定機関間の相互承認の拡大

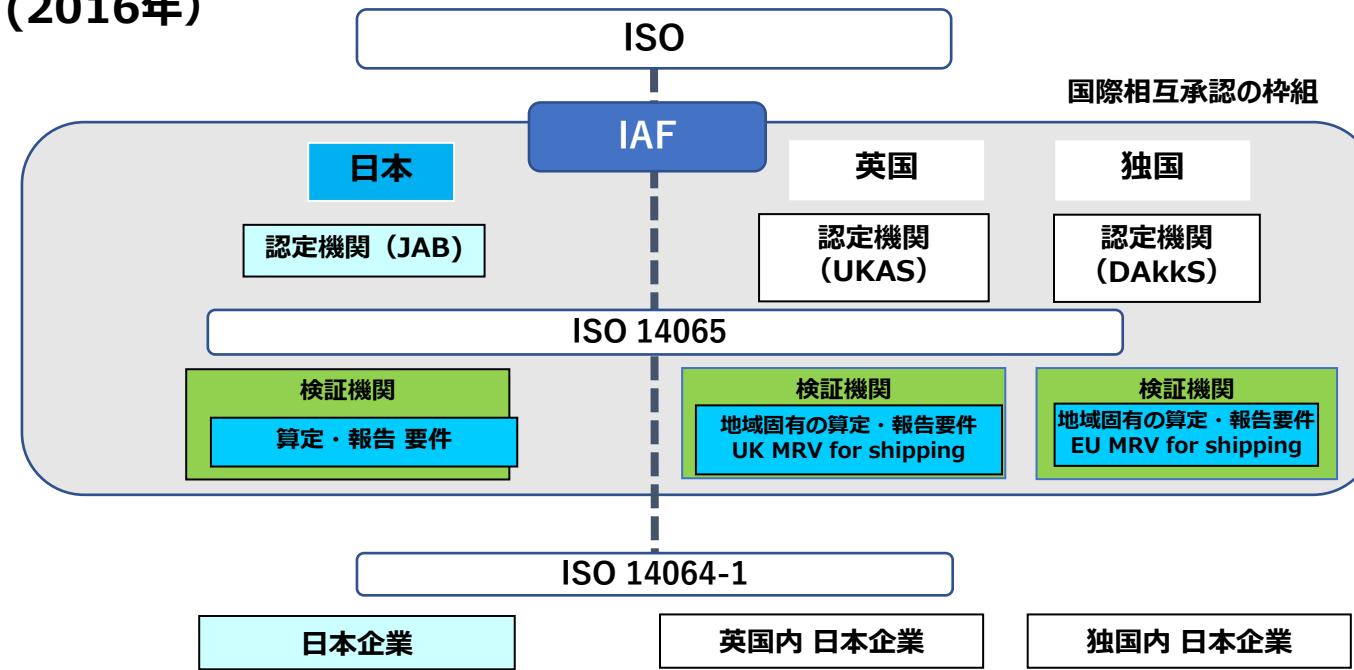
国際相互承認 MLA/MRA



### プロジェクト概要

- IAFMLA署名機関間で合意をもって、認定審査報告書を開示することもできる。
- 認定審査報告書を開示することで、海外の認定機関から追加要件のみ対象に認定審査を受け、海外で認定を取得することはできる。

### ISO 14064-1 国際相互承認を欧州MRV for shipping に適用した例 (2016年)



### JABの役割・貢献

- IAF国際相互承認に基づき、MoUのある認定機関間では、CABの同意のもと、認定審査報告書を開示する。現在 MoUを結んでいる認定機関：ANAB(米), SCC(加), UKAS(英), COFRAC(仏), RvA(蘭), DAkkS(独) JAS-ANZ(豪) など。
- 海外認定機関からは追加要件(各國規制)のみを対象に審査を受け、速やかに認定が得られる。
- 日本のCABは最小限のコストと時間で、海外から認定取得できる。日本企業は国際的な取引コスト(二重の検証コストなど)削減が期待できる。
- 海外認定機関からの委託審査をうけることもできる。また、海外認定を日本の認定に移管することもできる。
- 欧州での規制市場に対して、日本で認定された検証機関を活用できる機会の創出ができる。

### 今後のアクション

- サステナビリティ保証、電池規則、CBAMなどの新たな規制に対して、認定機関間の国際協力を活用し、日本の認証機関の活動範囲の拡大、認証機関の強化を支援する。



---

# JABの戦略的活動 Ⅱ

(情報発信を通じた認証機関の強化)

# セミナー、規格説明会（1/4）



	目的	対象
<p><b>2025年5月</b> <b>ifia Japan 2025 国際食品素材／添加物展</b> ・毎年ブース出展、ISO/IEC 17025についての講演も開催</p>	試験所認定の普及	食品メーカー、試験機関
<p><b>2023年～</b> <b>自治体職員向けISO/IEC 17025研修会</b> ・食品検査を行う自治体職員等を対象とした厚生労働省からの受託研修事業 ・今年度は初級3回、上級1回開催 ・研修対象者は米国・EU向け輸出食肉/水産食品に係る指名検査員/指名食品衛生監視員でのべ100名程が参加予定</p>	ISO/IEC 17025規格に対する理解を深めること伴う、検査実施試験所の監督管理を行う職員の能力向上	・自治体の輸出食肉に係る指名検査員及び輸出水産食品に係る指名食品衛生監視員 ・試験検査機関の信頼性確保部門担当者等、食品の検査業務に関連する業務に従事する方
<p><b>2025年10月</b> <b>ISO 20387（バイオバンキング）認定説明会</b> ・バイオバンキングに関する国際規格ISO 20387について、国内外の認定状況、取得によるメリットや実際の効果を解説 ・目的適合性やクリティカルといった要求事項の概要、認定審査の流れについても紹介し、ISO 20387認定取得を目指す機関に有益な情報を提供</p>	認定バイオバンクの普及	バイオバンクの認定取得に関心をもつ機関

# セミナー、規格説明会（2/4）



	目的	対象
<p><b>2025年10月 JABプラットフォーム2025</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本規格協会 「標準化と品質管理全国大会2025」との同時開催</li><li>・講演内容<ul style="list-style-type: none"><li>- ISO 9001改訂動向</li><li>- ISO 14001改訂の進捗と変化点について</li><li>- ClassNK SCSの概要～持続可能な航空燃料（SAF）スキームの仕組み～</li><li>- サステナビリティ開示・保証とGX-ETS～金融審議会WGと産業構造審議会小委員会より～</li><li>- さいたま市における試験検査の信頼性確保～自治体におけるISO/IEC 17025の活用～</li><li>- ISO 15189規格要求事項を満たすための重要ポイント</li><li>- ISO/IEC 17025の規格要求を満たすための重要ポイント</li></ul></li><li>・JABサステナブル研究会 2021年度～2024年度の総括 WG1：組織のSDGs経営促進に向けたISO 9001活用の取組み WG2：サステナビリティ経営と情報開示の信頼性向上に向けた ISO 14001・ISO 14064の活用</li></ul>	適合性評価制度の普及促進	規制当局、認証機関、認定審査員、適合組織（事業者）など、認定に関連するすべての利害関係者

# セミナー、規格説明会（3/4）



	目的	対象
<b>2025年12月 臨床検査室 認定事業開始20周年 記念講演会</b> ・臨床検査室に対する認定事業の開始から20周年を迎えるにあたり、公益社団法人 日本臨床検査標準協議会（JCCLS）との共催で記念講演会及び懇親会を開催 ・講演内容 来賓祝辞、主催者講演、記念講演、パネルディスカッション	臨床検査室に対するISO 15189認定事業は、2005年9月5日に初めての認定を授与して以来、全国47都道府県、300機関を超える臨床検査室に広がり、着実に発展を遂げてきた。 2025年に20年の節目を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返り、今後の認定制度の展望を関係者の皆様と共有し、さらなる発展に寄与することを目的に開催。	臨床検査室関係者、医療機関、行政機関、学術団体等
<b>2026年1月～3月（予定） ISO 15189 Next Stage ワークショップ2025</b> 東京・大阪・札幌	これまでの審査を振り返り、不適合の傾向や分析についての共有、個々の不適合事例に触れ、今後の継続した審査対応への参考や、情報共有、審査の質向上、検査室の品質向上を目的に開催。	ISO 15189認定取得した／認定取得に関心を持つ臨床検査室
<b>2026年（予定） SAF、GX-ETS、CFPに係る説明会</b> 2025年7月から認定事業を開始した製品認証サブスキーム「燃料製造プロセス：ClassNK SCS」、今後、認定事業を開始予定のGX-ETS制度、カーボンフットプリントに係る説明会を開催予定	サステナビリティに関する製品認証、妥当性確認・検証に対する担い手を広げ、社会により多く、広く認定された結果を活用していただく機会を創出する。	サステナビリティに関する製品認証、妥当性確認・検証に対する担い手  企業にとっては、外部検証前の内部検証（保証）の検討ツールにもなりえる。

# セミナー、規格説明会（4/4）



	目的	対象
<b>2026年（予定） ISO 14001:2026 説明会・セミナー</b>	ISO9001, ISO14001改訂版規格を深く理解し、現行版規格との差分を適切に指導できる指導者/講師を養成することを目的とした指導者向けセミナー（チューターズコース）を実施する。	ISO9001、ISO14001認証機関 ISO9001、ISO14001認証取得した適合組織
<b>2026年（予定） ISO 9001:2026 説明会・セミナー</b>		2026年にそれぞれ発行予定の改訂版について、IAFの移行要領を踏まえて説明会を開催。
<b>2026年10月（予定） JABプラットフォーム2026</b>  ・ ISO 9001 及び ISO 14001改訂をメイントピックスとして、JABサステナブル研究会の活動や規格解説を含め、時宜を得たテーマでの解説、講演を開催予定	適合性評価制度の普及促進	規制当局、認証機関、認定審査員、適合組織（事業者）など、認定に関連するすべての利害関係者

